

平成29年度第2回防府市総合教育会議議事録

1 開催日時 平成29年11月21日(火曜日) 午後3時30分

2 開催場所 防府市役所1号館3階第1会議室

3 出席者

防府市長	松浦正人
防府市教育委員会	
委員長	小松宗介
委員	清水智恵子
委員	村田敦
委員	田村純子
教育長	杉山一茂

4 説明のために出席した者

子育て支援課長	梶山範雅
社会福祉課主幹	吉武圭典
生涯学習課長	寺畑俊孝
生涯学習課社会教育主事	児玉慶太
学校教育課長	時乗順一郎
学校教育課教育指導係長	河村直子

5 会議に従事した職員

教育部長	原田みゆき
教育部次長	河田和彦
教育総務課長	原田一幸
教育総務課長補佐	片山裕美

午後 3 時 3 0 分開会

○教育部長 ただいまから、平成 2 9 年度第 2 回防府市総合教育会議を開催いたします。

初めに、防府市長から御挨拶をお願いいたします。

○市長 錦秋、あるいは秀麗という言葉がぴったりするき今日の良き日でございます。教育委員の先生方には極めて御繁忙の中、時間をとっていただきましての総合教育会議ということで、本日の議題は、子どもたちの放課後のあり方、放課後子ども教室、あるいは留守家庭児童学級・児童クラブ等々について、いろいろな角度からの御意見を頂戴し、教育行政の中に役立てていきたいと、このように考えているところでございます。

短い時間ではございますが、有意義なひとときとなりますよう、御協力とお力添えをお願い申し上げます、冒頭の御挨拶といたします。

○教育部長 ありがとうございます。

それでは、議事に入ります。

議長につきましては、防府市総合教育会議設置要綱の第 4 条第 1 項の規定に基づき、市長をお願いいたします。

○市長 それでは、先ほど申し上げましたように、本日の議題でございます。放課後子ども教室と留守家庭児童学級・児童クラブについてを上程いたしたいと思っております。

まず、放課後子ども教室につきまして、生涯学習課から説明をお願いいたします。

○生涯学習課長 生涯学習課でございます。着座にて説明させていただきます。

初めに、A 3 横書きの放課後子ども教室と留守家庭児童学級・児童クラブの概要の左側をご覧ください。

事業名でございますが、放課後子ども教室は、社会教育法に基づいた推進事業で、防府市においては平成 1 9 年度より実施しております。

1 の趣旨・目的でございますが、全ての小学生を対象として、安全・安心な子どもの活動拠点を設け、地域の方々の参画を得て、学習やスポーツ・文化芸術活動、また地域の方々との交流活動等の機会を提供する取り組みを推進しています。

3 の実施状況でございますが、(1) の設置数から (5) の設置内容につきましては、縦書きの表の平成 2 9 年度放課後子ども教室実施状況にて御説明させていただきます。

設置数は現在 1 4 カ所で、小学校等を主な活動場所としており、3 番の華城につきましては、小学校向かいの J A 華城支所、8 番の新田は公民館で活動しており、1 5 番の華浦は今年度設置予定です。

各教室、年間 3 5 回程度を目標に実施しており、登録児童数は 2 0 人から 8 0 人程度で、市全

体で578人でございます。

開催は長期休業中を除く水曜日の放課後午後3時から4時30分で実施しており、活動内容につきましては、全ての教室で活動前に宿題をしており、4番の松崎では手づくり工作や七夕飾り、紙飛行機やみんな遊び等の活動をしています。各教室でさまざまな工夫をされて、子どもたちが体験活動を行い、異なる年齢の児童が触れ合うよい居場所になっています。

また、表の右端の留家児連携とは、放課後子ども教室に参加した児童が留守家庭児童学級に参加できるのかを有無で記載しております。8番の新田につきましては、土曜日に活動しておりますので、連携はしていません。

概要に戻っていただきまして、下段の(6)指導員・支援員につきましては、地域の方を中心にコーディネーターを1人から2人、推進委員を3人から7人配置しています。

4の運営上の課題でございますが、コーディネーターは教室全体の運営を行う重大な役割を担っていただいているため、本事業を継続するにはその人材の確保が今後の課題となります。

続きまして、スライドで9つの教室の活動内容や様子を御紹介させていただきます。

初めに、表の1番の佐波です。こちらは学習活動が終わったときの様子です。地域の方は勉強だけではなく、相談にも乗ってくれています。こちらはヒマワリを使ってフラワーアレンジメント、生け花に挑戦しています。

次は、牟礼です。学年ごとにジャンボかるたを楽しんでいるところでございます。バルーンアートなのですが、これは風船を用いて犬・剣の2種類のバルーンアートをつくります。ちょっとわかりにくいのですが、地域の方の頭の上にバルーンアート、風船を工作してつくっているものを、写真で掲載しております。

次は、華城です。絵本による読み聞かせを行っているところです。さざなみ21の皆さんによる朗読劇を鑑賞しているところです。

次は、5番の中関です。開校式の風景です。お世話になる地域の方々が参加していらっしやいます。こちらはグループに分かれて、元気よく紙飛行機大会を行っています。

次は、9番の小野です。地域の方だけでなく中学生も参加していただいて勉強を教えてください。熱心に勉強している風景がうかがえます。また、クイズを通して仲間づくりの活動を行っています。

次は、右田です。実験で、水と油の違いを学習し、その性質を利用して一生懸命ボールペンをつくっています。次は地域の方の畑をお借りして、明るく、楽しく、サツマイモをつくっているところです。

次は、勝間です。防災をテーマに自分たちの地域の安全性について子どもたちが考えています。玉入れや風船遊びなど、いろいろな遊びを取り入れた遊びリンピックを行い、その優秀な成績を

取った子が表彰されているところです。

次は、向島です。ボールを投げて数字的のを何枚開けることができるか、ストラックアウトを行っているところです。こちらは、文化祭に向けてちぎり絵で蓬莱桜を表現しているものです。

最後に、富海です。こちらは英語を使って自己紹介や挨拶の学習を行っています。ALT、外国語指導助手の先生と一緒に英語のカード遊びを行っています。

どの写真も、子どもたちや地域の方たちが生き生きと活動している様子がうかがえ、また子どもたちが地域の方と触れ合うことによって、お互いの信頼関係も構築されているのもうかがえます。

以上、放課後子ども教室につきまして御説明させていただきました。よろしくお願ひいたします。

○市長 生涯学習課から、放課後子ども教室について説明を受けました。

それでは、次の説明をお願いいたします。

○子育て支援課長 子育て支援課でございます。着座にて説明をさせていただきます。

お配りしております表の右側になります、防府市の留守家庭児童学級と留守家庭児童クラブでございます。防府市では、昭和44年に条例を制定いたしまして留守家庭児童学級の事業の運営を開始いたしております。子育て支援課が留守家庭児童学級、社会福祉課が留守家庭児童クラブの所管をいたしております。

趣旨・目的でございますが、小学校に就学している児童で保護者が労働等により昼間家庭にいない児童、これに適切な遊び及び生活の場を与えるとともに、必要な保護及び指導、いわゆる保育と言っておりますが、これを行いまして、児童の健全な育成を図ることが目的となっております。

対象児童は防府市の小学校に在籍する児童で、保護者が家庭に不在、またその他の理由により昼間、保護者の保護を受けられない児童となっております。平成26年度までは1年生～3年生までが対象児童でしたが、平成27年度から新しい子ども・子育て支援新制度が始まりまして、小学校6年生までの受け入れが可能となっております。防府市においては小学校6年生までを受け入れております。

実施の状況でございますが、留守家庭児童学級におきましては、野島を除く16の小学校において27学級を開設いたしております。留守家庭児童クラブにおきましては、市内にあります4つの児童館に設置しております。開設日は、毎週月曜日から土曜日までで、国民の祝日、年末年始及び市長が特に定めた日を除くと条例で定めておりまして、夏休み、冬休み、春休みも開設しております。

開設時間ですが、小学校が授業を行う日ということで、授業終了時から午後6時半まで保育を

いたしております。小学校が授業を行わない日、いわゆる長期休業の夏休み、冬休み、春休み、それに加えて土曜日につきましては、午前8時から午後6時半まで保育を行っております。

なお、平成28年度に開設時間を延長いたしまして、それまでは午後6時までを保育時間としていましたが、保護者に対するニーズ調査を行った結果、6時半までという希望が多くありましたので、30分延長し6時半まで開設しております。

留守家庭児童学級及び放課後児童クラブのほうに登録・入級しております児童は、平成28年度、29年3月末現在で846人です。

活動の内容ですが、学校が終わりまして留守家庭児童学級及び放課後児童クラブに入った児童は、時間割を決めまして、まず学習、宿題をします。そして、それが終わりまして、教室内での遊びや校庭での遊びなどを行ったり、工作や読書などを行ったりして保護者のお迎えの時間を待つという生活を送っております。

指導員・支援員ですが、留守家庭児童学級及び放課後児童クラブには、支援員及び補助員を常時2人以上配置しているということが条件になっておりまして、常に支援員か補助員が2人で学級を見ているという状況でございます。

それから、運営上の課題ですが、平成27年度から子ども・子育て支援新制度が始まりまして、支援員は都道府県が行う、放課後児童支援員認定資格研修の受講が必須となりました。それまでは保育士資格、教員資格等があれば支援員になることができましたが、27年度からはこの研修が必須条件となったため、資格を持つ職員の確保がだんだん難しくなっておりまして、安定的な運営を行う必要があることから、現在、勤務しております支援員等に研修に参加をいただいているという状況でございます。

いずれにいたしましても、支援員の確保というものがこれから非常に厳しくなってくる状況があるということでございます。

以上でございます。

○市長 どうぞ。

○生涯学習課長 すみません、資料の訂正をさせていただきます。平成29年度放課後子ども教室実施状況の13番の向島ですが、全校児童数296人と記載しておりますが、申しわけございません、21人でございます。合計の数値については6,118人、全児童数となっております。

○市長 21分の21ということですか。

○生涯学習課長 向島の放課後子ども教室は全児童の参加ということですよ。

○市長 御苦労でした。

それでは、各事業の説明を受けたところでありますが、先日、KRYで放映されておりますはつらつ山口っ子という番組で、放課後子ども教室等の取り組みが紹介されておりまして、その映

像を見ていただけたらと思いますが、下松市の事例ではございますが、後半に松崎小学校の放課後の取り組みが紹介されております。ご覧いただきたいと思います。

### 【DVDの放映】

○市長 どうもありがとうございました。

今、映像も見たわけでありまして、説明も受けたところであります。子どもたちの元気な声を先生方も聞かれたところでございますが、これまでのところで御意見・質問などございましたらお願いしたいと思っております。小松委員長。

○委員長 29年度放課後子ども教室実施状況で、開催日が毎週水曜日の所だけではなく、月2回や3回という所もあります。関わる人が少ない勝間はボランティアの方が4人で、コーディネーターが1人から2人、推進委員が3人から7人という配置をどのように振り分けているのでしょうか。

また、学年別の比率や男女の比率というのはどのくらいなのでしょう。それと、映像では子どもが勉強しに毎日来ていますと言っていましたが、この毎週水曜日の放課後子ども教室とは違った学習教室なのでしょうか。

それから、あと登録者と参加費はどうなっていますか。児童全員が基本的には登録すべきでしょうが、どのような子どもたちが登録されていて、毎回来ている子というのは恐らく楽しみにしていると思っておりますが、登録している子どものうちの何割ぐらいが毎回来ている子なのでしょうか。

○市長 どうぞ、お願いします。

○生涯学習課長 まず、勝間のボランティアの方が少ないのではとのことでしたが、運営協議会というのありまして、委員長さん、副委員長さん、委員さんがいらっしゃいますので、ここは推進委員さん、コーディネーターさんを除いたボランティアの数を掲載しています。

○委員長 本来だったらボランティアの方がたくさんいらっしゃるけれど、たまたまここは載っていないということですね。

○生涯学習課長 今回は当初の事業の内容を触れさせていただいたので、この事業に関わるボランティアのパターンが増えてきているというのが現状でございます。

○委員長 基本的には、さっきビデオであったように、放課後に勉強しに来るのかなと思ったら、活動内容がすごくたくさんあって、その中で富海では、英語で挨拶しようとか英語のカード遊びとか、グラウンドゴルフと封筒づくりを行っていますが、地域のことを子どもたちに教えるのであったら、前回の総合教育会議で取り上げた藍染め教室はなぜここに載っていないのですか。

○生涯学習課長 あくまでも地域のボランティアの指導者に内容を取り決めていただいております。実施にあたってはお手伝いいただける状況が整えばできますが、整わない場合はできないということになります。

- 委員長 ここにはお二人、地域おこし協力隊の方がいらっしゃるわけで、何かやろうと思ったら、簡単にできそうだと思うのですが、それをまた売りにして富海地区は三世代も含めてどんどん今から推進していこうという中で、ちょっと不思議だなと思ったので質問してみました。
- 市長 御質問の中であった、毎日勉強に行っているという松崎小学校がありました、それとこの月3回水曜日というのとは別物なのですか。
- 生涯学習課長 映像で流れたわくわく教室と放課後子ども教室は別物です。
- 市長 放課後子ども教室というものは、このA3版のペーパーに記載してありますが、その別物というのはどこにあるのですか。
- 生涯学習課長 今回の資料では添付しておりません。
- 市長 そうすると、例えば佐波小学校の場合には毎週水曜日となっていますね。毎週水曜日には活動内容のようなことをやっているのだけれども、月曜日から金曜日まで学校の授業が終わったあと、子どもたちが集うところがあるわけですか。
- 生涯学習課長 いえ、放課後子ども教室はございません。
- 市長 わくわく教室のようなものはないのですか。映像にあった松崎小学校では毎日と言っていたじゃないですか。
- 学校教育課長 わくわく教室は放課後子ども教室でも留守家庭児童学級でもありません。これは、松崎小学校の学校運営協議会等が中心になって、コミュニティースクールの流れの中でやろうじゃないかということで、ボランティアの方によって行われているものです。
- 市長 松崎小学校だけですか。
- 学校教育課長 今は松崎小学校だけです。
- 教育長 少し補足します。毎日やっているのは松崎小学校だけですが、大道小学校でも地域の方が学習支援として勉強を見ていて、またこの夏からは牟礼小学校の校区でも取り組みを始めております。市内いろいろなところでそういう取り組みを広げたいという私どもの願いは持っています。ただ、放課後子ども教室、留守家庭児童学級とは別に、いわゆる地域の方、ボランティアの方でできたらという気持ちでいます。
- 委員長 すごいなと思うのは、小野小学校は登録した児童数が30人ぐらいしかいないのに、ボランティアの登録が90人いらっしゃるのですね。本当に教えたくて教えたくてしょうがないから毎日やりたいとかいうことはないのですか。
- 生涯学習課長 90人というのは気持ちのある方が登録をしていらっしゃるのです、もちろん来られるのですが、毎回毎回90人が来られるわけではありません。
- 委員長 割り振ってやったら、うまいこと何かできそうな気がするのですが。
- 市長 小野小学校の場合は中学生も参加していると先ほどおっしゃったでしょう。中学生はどう

やって参加するのですか。自分の授業もあるし、自分のクラブ活動もあるでしょう。

○生涯学習課長 3時から4時半にやっていますから、その時間に来ることができる中学生が来ています。

○市長 放課後子ども教室というのは原則3時から4時半にやっているわけですね。

○委員長 運営上の課題というのがありますね。その中で人材の確保が今後の課題になると書いてありますが、1年ごとにみんな歳をとっていくわけだし、新しい人を入れる、若しくは、辞めたときに新しい人を入れる、若しくは毎年1人ずつ増やして行って、例えば10人まで持っていくのだとか、その辺のことはどのように計画されているのですか。

○生涯学習課長 人数のほうは何人をというのは考えてないのですが。

○委員長 コーディネーターが1人なら1人。

○生涯学習課長 1人は絶対必要です。

○委員長 推進委員が3人から7人という中で、減ったら補充をするという格好でやっているのですか。

○生涯学習課長 そうですね。運営ができる状況をこちらのほうではバックアップしていきたいと考えております。

○委員長 その場合は試験とか資格制度とかは、こちらはつくっているのですか。もう片方の留守家庭児童学級は結構厳しい条件がありますよね。

○生涯学習課長 放課後子ども教室に関しては熱意のある方であれば資格は必要ありません。

○委員長 確かに内容を見ても、地域間の中で楽しそうにやっている。先ほどの下松市の場合には、恐らく土曜日や日曜日を使って一日遊びを中心として豊かな子どもの心を育てるというようなことが入っていると思いますし、生きる力を育むということが基本でこういうものが進められていると思うのですが、例えば中関小学校は全校児童数が700人いて30人しか登録してない。少しでも多くの人が登録してほしいけれど、ネックになっているのはスポーツ少年団や塾に通っているといったことがあると思うのですが、その辺りは今後、どういうふうを考えられていますか。

○生涯学習課長 あくまでも放課後子ども教室は子どもに生きる力を与えるというか、健やかな成長を促すために、地域の方と触れ合っていただいて、異学年等の交流を深めるという内容なのですが、ただ、スポーツ少年団もありますし、塾もございます。あくまでもそこは子どもに選んでもらうことになりますので、子どもは活動内容をより充実したものにしていくため、指導者の方として特技のある方に積極的に入っていただける環境づくりをしていけたらと考えています。

○委員長 それがコーディネーターの役割であり、推進委員の役割ですね。どうもありがとうございます。ほかの方もどんどん質問してください。



○学校教育課長 先ほどの富海の藍染めの件ですが、これは、富海小中学校のカリキュラムとして、最初から授業の中に入っていますので、放課後子ども教室では行っていないのではないかと思います。

○市長 今の話の藍染めは、地域おこし協力隊の方々ですよね。昨日、地方創生担当の梶山大臣と地方6団体の代表で協議をしまして、この地域おこし協力隊は非常に効果が上がって、地域おこしに役立っているという評価を当局も持っておられるようで、一層頑張ってくれということを私からも訴えています。

清水委員は何か質問ございませんか。

○清水委員 放課後子ども教室を行うにあたって、地域の方とのかかわりが本当に多くてすばらしいなと思います。それこそコミュニティースクールもあって、子どもたちが楽しんで来てくれることが一番なので、放課後子ども教室が月1回じゃなくて月3回と、もっと増やしてもいいのかなとも思いました。

しかし、佐波小学校、牟礼小学校は開設からもう10年たっており、人材育成や確保が難しいとも聞いていますので、一旦、活動内容にしても、周りの小学校と比べながら広げていける機会が何かあれば、またどんどんアイデアも増えて、各学校がもっと活発になるのではないかなと感じました。

1つ質問なのですが、留守家庭児童学級の支援員は資格も必要で、人材確保が難しいということとで、休みの日は午前8時から午後6時半までになっていますよね。最低人数、子どもが何人から何人までが支援員が必ず2人いますよという何か決まりがありますか。

○市長 どうぞ。

○子育て支援課長 子どもが1人でも2人の支援員がいます。

○市長 支援員は2人いないといけないのですか。

○子育て支援課長 必ず2人です。

○清水委員 最大は何人までですか。これ以上は見られませんという人数はあるのですか。

○子育て支援課長 一学級が概ね40人までという規定となっております。概ねですので超えても問題はないのですが、児童1人当たりの必要面積1.65平方メートルは確保しなさいということになっていまして、ぎゅうぎゅう詰めにするような形はできませんので。

○市長 今、留守家庭児童学級の数は、例えば佐波なら何学級、牟礼なら何学級というのは教えていただけますか。

○子育て支援課長 牟礼からまいります。牟礼が2学級、華浦が2学級、新田が2学級、勝間が2学級、中関が2学級、華城が4学級、松崎が2学級、佐波が2学級、小野が1学級、大道が1学級、西浦が1学級、牟礼南が1学級、玉祖が1学級、富海が1学級、右田が2学級、向島が

1学級、合計27学級です。

○市長 どこか3学級になるような話を聞きましたが。

○子育て支援課長 中関小学校が校舎改築中のごさいますて、そのタイミングで3学級です。

○市長 改築が終わったらですね。よく私たちの話題になってくるのがマンパワー、人材の確保ですが、そういう面ではどうですか。

○子育て支援課長 今のところ人材は確保できておりますが、ここに書いております、長期休業となる夏休みや春休み、冬休みの期間だけ保育をしてほしいという要望がやはり増えております。通常は入級してないのですが、長期休業中は留守家庭児童学級で面倒を見てほしいとの要望があります。

○市長 お父さん、お母さんに仕事があるからですか。

○子育て支援課長 長期休業は子どもが増えます。8時から夕方6時まで保育していますので、今いる支援員がローテーションで休憩時間をとるため、1日を3人で回すようにしています。通常2人ですので、各学級で3人の支援員の確保をして1日2人を入れて1人が休むというローテーションでやっているのですが、長期休業はどうしても1日に3人がいるため、休みが取れなくなるので代替の補助員を確保する必要があります。ですので、長期休業中の補助員を確保するのが非常に難しいです。

○市長 夏休みの期間などに限定されてくるから難しいですね。

○子育て支援課長 そうですね。

○市長 長期休業中以外の時は仕事がないわけですから、大変ですね。

○教育長 逆にですね、学校の非常勤が長期休業中に仕事がないのです。恐らく報酬面でかなり下がると思うのですが、そういった方を活かせるのではないかなと思いました。

○子育て支援課長 今、教育長が言われたように、学校の支援員さんがいらっしゃいます。そういう方にお声はかけています。

○市長 お願いするということね。

○子育て支援課長 お声がけしていますけど、なかなか集めるのが難しいです。

○教育長 報酬の問題だと思うのですが。

○子育て支援課長 それもあるかもしれません。

○市長 それで、夏休みだったら朝から夕方まででしょう。

○子育て支援課長 一応ローテーションで、休憩時間がありますので、半日勤務の方と1日勤務の方を組み合わせながらやっています。

○市長 教育環境の整備というのは本当に大変ですね。その他質問はありますか。

○村田委員 実際のことを知らないのて教えていただきたいのですが、先ほどの松崎小学校のよう

な学習支援がない学校の留守家庭児童学級では、子どもたちはどのような活動をしているのでしょうか。

○子育て支援課長 松崎小学校以外の留守家庭児童学級でございますが、教室に帰ってきて、最初に宿題をするときに、支援員にわからないところを聞いてきた場合にはそこを補助していくというようなことがございます。

○村田委員 学習ですか。

○子育て支援課長 いいえ、留守家庭児童学級は帰って来て、まず宿題をさせます。宿題が終わればその後におやつ、おやつが終わっているような自由遊びの時間です。

○村田委員 長期休業のときは1日ですが、それも同じような過ごし方ですか。

○子育て支援課長 そうですね。朝来たら読書をしたり宿題をしたり、夏休みの課題をやったりしながら過ごして、昼食をとって昼からはいろんな遊びをしたり、ビデオを見たりしながらお迎えを待ちます。

○市長 その昼食というのは。

○子育て支援課長 お弁当です。

○市長 皆さんが。

○子育て支援課長 はい。

○教育長 おやつ代は毎月いくらですか。

○子育て支援課長 おやつ代は毎月1,000円です。

○市長 保育料はいくらですか。

○子育て支援課長 保育料は毎月3,000円です。

○市長 今のは、留守家庭児童学級のことでですね。

○教育長 放課後子ども教室はお金がかかりません。

○市長 要するに、留守家庭児童学級と、それからわくわく子ども教室と、それと放課後子ども教室の三本立てが現実的には可能なわけですね。

しかし、放課後子ども教室はようやく華浦小学校も今度から入ってくることによって充足できてきたのだけれども、わくわく子ども教室は毎日勉強したいという子どもがいても、それを補充する補助員がないということで開設できないということですか。それとも需要がないからその必要がないのですか。牟礼と大道と松崎、特に松崎は毎日可能だという話でしたが。

○教育長 松崎はやはり教員OBの方が多くて、あるいは交通の便もいいから、ほかの地域からも協力をするというので始めたので毎日できます。それに対して大道などの今始まったところは、毎日というわけにはいかないという状況があります。

ただ、留守家庭児童学級あたりで宿題をやっているわけですから、その上で、勉強についてい

けない子どもや、あるいは映像にもありましたが、勉強してみても勉強がおもしろい、難しい勉強が解けるようになったという子どもたちにはとても有効なんじゃないかなと思います。こうしたことをそれぞれの地域で、ボランティアでやっていただける方がおられたらと思います。

○村田委員 その学習支援というのはボランティア以外に、例えば学校から教員を派遣するとか、そういったことはできないわけですか。

○学校教育課長 現実、学校の教育活動をやるだけで多忙である状況で、勤務時間内には基本的に勤務は命じられません。先生が行くというのは、難しいかと思います。

○市長 これは今全国的な問題になっていまして、少し話が飛びますが、私は教育施設や公共施設のトイレの洋式化を進めていますが、小中学校の洋式化が極端に遅れているようです。冷暖房まで行かないまでもせめてトイレを何とかしたいと思っています。今、文部科学省にも強く要望を入れているのですが、今度の補正がつかないと大事になります。690億が当初予算でついていたのですが、2,000億ぐらいついてこないとたちまち困るのですよね。

それと、あと教員の過重労働が大変ですね。そういう中で今の放課後子ども教室並びに留守家庭児童学級、そしてわくわく教室のような勉強を見ていただける方を確保していくということは、常にやっておかないと難しいですよ。

○教育長 放課後子ども教室と留守家庭児童学級の活動内容はあまり変わりません。結局、縦割り行政と申しましょうか、一方では教育委員会、一方では市でということですが、対象は子どもで同じです。これをどうにかできないかなと思います。何か1つ同じ目で、あるいは民間のボランティアの活力をいただいたらという思いがあります。

○委員長 留守家庭児童学級は最初1年から3年まででやっていて、今、1年から6年までになったから、対象にまた同じ層が重なっている。この話を聞いたとき、不思議だと思いました。

○市長 どういう言葉の表現がいいのかわかりませんが、留守家庭児童学級に行ける子どもと行けない子ども、親の気持ちもあるだろうと思います。その点どうでしょうか。先生、いかがですか。

○田村委員 学校現場にいるものに取りましては、この2つの事業は本当にありがたい事業で、特に勝間小学校は本当に共稼ぎの家庭が多く、子どもたちが帰っていく安心できる居場所が少ない現状がありました。その中で、この2つの事業に関わる子どもたちの状況をわかっていただきたいということで、管理職はもちろんなのですが、担任がときどき覗きに行って担当の先生と話をしたり、情報を共有したりということはありません。ですから、今、教育長がおっしゃいましたように、縦割り行政ではあるのですが、人だけはつながってほしいなと思います。活動をつなげて一気にやるということは非常に難しいのですが、お互いの顔を見知って、人だけはお互いにつながりながら、何年の何々さんをちょっと気にしています、などということをお願いされるといいなと考えています。

○市長 先ほど勝間小学校の子どもたちから来ている手紙の返事を書いていたのですが、ちょっと気になるのが、字が上手な子が少ないですね。手紙の内容にあった返事を書きますので、その字を読むのに時間がかかる。今、勝間小学校を書いている、その前にも松崎小学校を書いたのですが、6年生ですからもうちょっとしっかりした字を書いてほしいと思います。一般論ですが、もっと読み書きそろばんという、昔のきちとした学問の一番の基礎が抜けているのかなど。先生方もそういうふうなことをしっかりお教えいただいているのだらうと思いますが。

どうぞ。

○委員長 いつもこの総合教育会議を行うときに、市長に教育再生首長会議で今どういうことが一番課題になって進んでいるのかということ、短い時間にまとめてお話いただいているのですが、もし時間が許すようでしたら少し話していただけますか。

○市長 私も今、全国市長会の会長になりましたので、教育再生首長会議は今年の6月に近畿のある市長さんをお願いをしています。二、三日前に会いましたが、肝心の勉強会のときに、私が内閣の協議会のほうに行かざるを得なくて、勉強会のほうに出向いて行ってないのです。非常にユニークな方が講師にみえられていて、私は終わりごろになって少し顔を覗けたので、今回の勉強会の状況をよくわかってないのですが、皆さん熱心に取り組んでいて、ユニークな教育をしておられるように私は感じておりますね。

それから、きょうは放課後子ども教室と留守家庭児童学級の現実・現状について、詳しく説明を受けましたが、学校現場では例えば留守家庭児童学級をもっと増設してほしいなどというような声はどうなのでしょう。

○学校教育課長 そういう声はちょっとこちらには届いていません。ちょうどいい感じなのかなと思っっています。

○子育て支援課長 小学校6年生まで受け入れが拡大した関係で、年度当初、若干待機が出ます。ただし、4年生以上をお断りすることによって、今まで1年生から3年生までで発生していた待機児童はゼロになっていますので、我々としては、待機はないという考えを持っています。中関小学校は、これまでは定員が概ね50人でしたのが平成27年度の新制度の移行に伴いまして国のほうが概ね40人にしようということになりましたので、1学級増やして3学級になります。

○市長 どうぞ。

○村田委員 将来の需要見込みは子ども・子育て計画の需要見込みですので、恐らく少子化をにらんであまり伸びないというような形で計画されていると思うのですが、今後、女性の社会的参加が進んで行けば、当然、そういった需要は増えてくる可能性があるのではないかと思います。今でも教室がぎりぎりの状況ですと、将来、本当に必要になったときに教室や人が間に合うのかと思います。その辺はもう一度、見直しておいたほうがいいようには思います。

○市長 私も何度も申し上げるように、教室は確保できても先生が確保できるかどうかということが将来的に大きいポイントになっていくような気がして仕方がないですね。その辺は抜かりなくお願いしたいと思います。

○教育長 教員免許所有者などの潜在の部分はかなりおられると思いますので、一億総活躍社会ですか、そういう方たちが改めてまた登場して来られるので、研修を受ける機会をしっかりと提供していただければまた別の様子を示してくると思います。

○市長 わかりました。

ほかに、今日の命題に沿った形での御質問はございませんか。

それでは、放課後子ども教室と留守家庭児童学級、あるいは児童クラブというものについての御協議・御質疑をいただいたところでございますが、ここらで事務局にお返しをいたしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○事務局 ありがとうございます。特に御意見等ないようでしたら、本日の会議は閉じさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、以上で、平成29年度第2回防府市総合教育会議を終了いたします。大変お疲れさまでございました。

---

午後3時39分閉会